

# 「特殊な文法形式をとる感情形容詞について」

日本語能力試験 1 級の出題語彙水準である感情形容詞を中心に

大石 有香

## 要 旨

日本語学習者が感情形容詞を用いて文を作る場合、一定の文法形式のルールに則って文を作れば、正しい文を作ることができる。しかし、感情形容詞の中でも、いわゆる一般的な感情形容詞の用法とは異なった文法形式をとる感情形容詞がある。拙稿では、日本語能力試験 1 級出題語彙の中から、特殊な文法形式をとる代表的な感情形容詞を取り上げ考察している。「きのどくだ」、「すまない」、「もうしわけない」、「すきだ」、「きらいだ」、「おかしい」の 6 語についてである。単文基本形で用いることができる感情形容詞は、いわゆる一般的な感情形容詞であり、この用法が使えない感情形容詞でも、感情主を「二八」、「ニトツテ」で受ければ、ほとんどが文として成立することがわかっている。しかし、更に感情主を「二八」、「ニトツテ」で受けることができない感情形容詞が少数ある。その少数に 6 語が含まれている。これらの語は、多くの感情形容詞と同様の用法が使えないため、日本語学習者にとっては語の用法の習得は困難を伴う。ここでは、その習得の困難を解消するため、6 語各々について、状態主になるヒト、モノ、コトの観点からも考察をし、また対象格の意味類型を変化させ先行研究を踏まえた上で分析、考察している。

キーワード：感情形容詞、特殊な文法形式、ヒト、モノ、コト

## . はじめに

感情形容詞の中には、感情形容詞を述語とし単文基本形で用いることができるもの（うれしい、かなしい...）と、できないもの（おもしろい、おいしい...）がある。その単文基本形で用いることができない感情形容詞の中でも、感情形容詞を述語とした文の中で、話し手である感情主を「二八」、「ニトツテ」で受けることができる語とできない語がある（大石2005）。できない語の中には、感情形容詞の中でも特殊な文法形式を持つが、今回はその中でも感情形容詞を述語にした場合で、特に文法形式に特

殊性をもつ「きのどくだ」、「すまない」、「もうしわけない」、「すきだ」、「きらいだ」、「おかしい」の6語<sup>(1)</sup>について、考察し、ヒト、モノ、コトの観点からも考察している。拙稿で扱う感情形容詞は、日本語能力試験1級出題基準の語彙である。

## 、「きのどくだ」について

まず「きのどくだ」について述べる。この語は、「気の毒な人」、「気の毒な山田さん」のように連体修飾でき、西尾(1987)が指摘するように属性形容詞の様相も見せる。しかし、「彼は山田さんを気の毒がっている」、「彼は山田さんが気の毒なようだ」のように感情形容詞の振るまいも見せ、「気の毒でならない」や「気の毒でたまらない」などのようにも用いて、属性形容詞と感情形容詞の用法をあわせ持つ。この語は感情主と感情形容詞の2つの要素からなる文において、感情主の一人称を「ハ」や「ニハ」で受けることができないが、ヒト状態主(感情形容詞の対象であるヒトをこう呼ぶこととする)を「ガ」で受けて、二重主語文にすれば、成立する。

(1) 私は山田さんが気の毒です。

そして、

(2) 私は山田さんが気の毒なんです。

と、「のだ」を用いて説明文としたり、

(3) 山田さんは気の毒です。

ヒト状態主を主題化させた文も使われるが、このような例文は、「感情的判断を表す形容詞(寺村(1982))」(いわば半感情・半属性の形容詞)の働きになるだろう。また、聞き手に対して、「気の毒だ」と感じ発話する場合には、「あなたは気の毒だと思います」と「思う」を用いて意見を表明しても仕方がないので、「お気の毒です(ね)」のように接頭辞「オ」をつけて用いたりする用法が挙げられるだろう。

モノ状態主(感情形容詞の対象であるモノをこう呼ぶこととする)ではどうだろう。

(4) あの学校は二度も火事にあって気の毒だ。

(5) あの畑は日が当たらないから気の毒だ。

のようにモノ状態主の文でも用いることができる。「あの学校は」、「あの畑は」とモノを状態主としているが、実際には、「あの学校の関係者の人々」や「あの畑の所有者」に対して「気の毒だ」と言っているのであって、「(あの学校の)コンクリートの建物」、「(あの畑の)土地」というモノ自体に、「気の毒だ」と言っているわけではない。実際には「(わたしは)人」が「気の毒だ」と思っている、その「人」の所属先、所有物を主題化して文にすることができる。

他の例を見てみる。

?(6) あの木は、火事のとくに燃えてしまって気の毒だった。

(7) 動物園の白熊は、夏は暑そうで気の毒だ。

のように、植物には用いにくく、動物には用いるという場合もあるだろうが、これは個人によって差がでるだろう。「気の毒だ」ではなく、「かわいそうだ」を用いれば、モノ状態主でも、個人によって多少差が出るにしても、許容度が高まるだろう。

(8)あの樹齢二千年の木は、火事のときに燃えてしまってかわいそうだった。

(9)動物園の白熊は、夏は暑そうでかわいそうだ。

もちろん「かわいそうだ」は、ヒト状態主においても用いることは可能である。

(10)私は山田さんがかわいそうだ。

(11)山田さんは私がかわいそうらしい。

コト状態主の文の場合、

(12)父の運命は本当に気の毒であった。

(13)彼の過去は気の毒なものであった。

のように成立するが、ヒトに大きく関わる「コト」であるだろう。

## 。「すまない」、「もうしわけない」について

これら2つの語は、比較して考える必要があるだろう。これらの語に見られる顕著な特徴は、他の感情形容詞と違って謝罪としての「表現」としても使われるということであろう。用い方としては、目上に対しては、「すまない」より「申し訳ない」の方を用いた方がよいということ、女性は「すまない」を謝罪の表現として用いることは少ない、ということがあげられるだろう。

また、通常、感情形容詞が述語になる文では感情形容詞の対象は「ガ(ハ)」で受けるが、「すまない」、「もうしわけない」に限っては「ニ」を「ガ」に置き換えて、二重主語文の中で用いることはできない。

\*(15)私は山田さんが申し訳ない/すまない。

「すまない」、「もうしわけない」において、基本になる構文は、「(ヒト)ハ(ヒト)ニすまない/もうしわけない」があげられ、これはこの2つを除いて、他の感情形容詞には見られない構文である。

(14)私は山田さんに申し訳ない/すまない。

この「(ヒト)ハ(ヒト)ニ すまない/もうしわけない」という構文を基本にして、様々な要素が足されていく。

これら「すまない」、「もうしわけない」において、通常、モノ状態主をとることはできなく、ヒト、コト状態主であれば可能である。

(16)わざわざ車で迎えに来てもらうのは申し訳ない/すまない。

この文ではコト状態主を用いているが、一人称の感情主はもちろんであるが、感情の対象先「ヒト ニ」が省略されている。文脈で感情の対象先が明らかにはっきりわかっている場合には省略が可能である。例文にはノ節を用いてあるが、他には、タラ、

テ節が用いることが多いだろう。

(17) わざわざ車で迎えに来てもらったら申し訳ない / すまない。

(18) わざわざ車で迎えにきてもらって申し訳ない / すまない。

また、連用形で「思う」を受けること、引用節として用いることも可能である。

(19) 私のせいで会社をくびになったことは申し訳なく思います。

(20) 私のせいで会社をくびになったことは申し訳ないと思っています。

2つの語はそれぞれ「すまながる」、「もうしわけながる」という形をとることもでき、感情形容詞の特性もみせるが、寺村(1982)の「いわゆる感情形容詞」の用法「X(感じ手)ニ/ガY(ガ)感情形容詞」も、「感情的判断を表す形容詞」の用法「(Xニ)Yガ感情形容詞」の用法のどちらもとることはできなく、「すまない」と「もうしわけない」は、用法において、ここにあげている語よりも更に特殊性があるといつてよいだろう。ただ付け加えておくと、『基礎日本語辞典』によれば、「すまない」は、起こした事態に対し償いをすることによって元の白紙に戻る「澄む」の発想からくる語であって、「埋め合わせがつく」、「申し訳が立つ」意となり、それが「すみません」、「すまない」などの言い方に派生している。

### ・「すきだ」、「きらいだ」について

この語を述語とした文では、二重主語文として、状態主としてはヒト、モノ、コトを用いることができるのはいうまでもないだろう。

また、この語の特殊性としては感情主が話し手の文の場合、「すきだ」を「思う」で受けることができないことがあげられるだろう。

\*(23) 私は寿司が好きだと思ふ。

\*(24) 私は寿司が好きに思ふ。

単文基本形の文中で、述語として用いることができる感情形容詞、「うれしい」、「かなしい」などは、語を引用節として、「\*私はうれしいと思ふ」や、「\*私はかなしいと思ふ」などの使い方はできないが、連用形として、「私はうれしく思ふ」や、「私はかなしく思ふ」のように副詞的用法として「思ふ」を修飾する使い方は可能である。連用形で「思ふ」と接続することは可能であるのに、引用節として「思ふ」と接続することがむずかしいのはなぜだろうか、という疑問がわく。「すきだ」においては、引用節としても、連用形としても「思ふ」と接続することは難しい。「うれしい」、「かなしい」と「すきだ」を関連させて考察してみる。

「すきだ」においては、引用節としても、連用形としても「思ふ」と接続することは難しい。一方、「うれしい」、「かなしい」においては連用形にし、思ふと接続することが可能である。この使い方はもともと、「うれしゅうございます」、「かなしゅうございます」が、第二次世界大戦後、「うれしいです」、「かなしいです」の形に移行

(『日本語教育辞典』)したが、この形ではあまり丁寧さが感じられないと思われ、「うれしゅうございます」、「かなしゅうございます」の代用として、「うれしく思います」、「かなしく思います」の形が用いられるようになったと考えられる。

次の例文を考察してみる。

(25) 私は今回の最優秀賞受賞がうれしいです。

(26) 私は今回の最優秀賞受賞をうれしく思います。

\*(27) 私は今回の最優秀賞受賞を / が うれしいと思います。

(28) 山田さんは今回の最優秀賞受賞をうれしがっています。

単文基本形として用いることのできる感情形容詞は二重主語文の中でも用いることが可能なので、(25)の文は当然成り立つ。また、(26)の文の「うれしい」は、これまでに指摘されているように、副詞のような職能を持ち「思う」を修飾している。「うれしい」を引用節として用いている(27)の文は非文であるが、それはどうしてだろうか。

(29) 私は今回の最優秀賞受賞を / が うれしいと感じます。

この文は少し不自然だが、全くの非文である(27)の文よりは許容度は高いだろう。このことから、「うれしい」は、過去の出来事を振り返って湧いてくる感情表出ではないので、引用節にして、思考を表す「思う」と接続することはできないのではないだろうか。

以上のことをみて、「すきだ」を考察してみる。

「すきだ」は、うれしかったり、気持ちよかったりするプラスの感情を持った場合に持つ感情である。「うれしい」は、外界からの刺激があってから感情を持つまでに、あまり時間がかからなかったりするのに対して、「すきだ」は、「すきだ」という感情を持つまでに「うれしい」よりも時間がかかるときに用いる場合が多いとはいえないだろうか。

「うれしい」は、「思う」を連用修飾することができたが、例文「\*私は寿司が好きに思う。」のように、「すきだ」はそれができない。どう思うか、の説明にはなりえないからである。「\*私は寿司が好きに思う。」のように、引用節として用いることもできない。「うれしい」という感情は、思考から生まれるのではなかったもので、引用節として「思う」と接続できなかったが、「すきだ」の場合はどうであろうか。

\*(30) 私は寿司が好きだと感じる。

のように非文である。「すきだ」は、思考から生まれるのでもないし、「うれしい」のように、引用節にして、「感じる」で受けることもできない。

もし、気になる異性から、

\*(31) あなたのことが好きだと思う。

と言われたらどうだろうか。あまりうれしくないだろうし、どうして自分自身の気持ちをはっきりとわからないのかと不思議に思うだろう。

(32) あなたのことが好きなんだと思う。

のように、感情主が自分自身の気持ちを思い返し確認し、「すきだ」を「のだ」で説明すれば、その説明を「思う」で受けることはできる。思い返し確認する作業は、思考に基づくからである。しかし言い切りの形を引用節として「思う」で受けることができない。

(33)あなたのことが好きだと思った。

(32)あなたのことが好きだと思っていました。

過去のことを言い表す文の場合、過去のことを思い返すという時間ができることによって、感情主自身の気持ちの説明にも成りえるため、文に幾分か許容度が出てくる。

最近では、

(33)私、このかばん好きみたい。

のように、感情主が話し手の場合にも、感情形容詞に推量の助動詞「みたい」を伴う場合がある。本来なら発話時の自分自身の感情を述べる場合には、感情形容詞に推量の助動詞は用いられないはずであるが、用いることによって話し手の感情の度合いを薄めて聞き手に伝えているのだろう。「みたい」や「みたいな」は、感情形容詞だけに限らず、他の品詞の文末にも用いられ、話し手の感情や行為などの程度を弱め、聞き手に対し話し手の言表が強すぎないように、押し付けがましくないという意図が働くのだろう。

## ・「おかしい」について

この語は、ヒトを感情主にしてモノ状態主、コト状態主の文にも用いることができる。

(34)私(は)この計算はおかしいと思う。

\*(35)私(は)この計算はおかしい。

(36)山田さんはこの計算をおかしがっている。

(37)この炊飯器のタイマーはおかしい。

(38)最近うちの猫の具合がおかしい。

以上の例文の中で、(35)は非文である。「おかしい」を、間違っている、通常ではないという意味で用いる場合、感情主が話し手の場合、言い切りの形を用いることはできない。これは属性形容詞と同じ機能である。

しかし、第三者が感情主の文では、「がる」や推量の助動詞などと一緒に用いなければ使えない語であり、感情形容詞の要素も持つ。また、

(39)この服は私にはおかしい。

のように、似合わない、ふさわしくないの意味として用いる場合に限っては、話し手の感情主を「二八」で受けることができるという機能を持つ。

以上、話し手としての感情主を「二八」で受けることができない語をみてきた。た

だし、「おかしい」においては、とる意味によっては用いることが可能な場合がある。「おかしい」においては、間違っている、通常ではないという意味で用いる場合には属性形容詞の用法としても用いることができ、似合わない、ふさわしくないの意味で用いる場合には、話し手の感情主を「二八」で受けることができるという特殊な事情を持つ。

更に、これまで述べてきた6語については、話し手としての感情主を「二八」で受けることができないということは、他の誰かと比べてどうだという比較する用法が用いられないということであり、それは自分自身が持つ絶対評価に基づいているといえるだろう。ゆえに、これらの語は、感情形容詞の中でもより感情的な感情形容詞と呼べるだろう。さらにこの中でも、「すきだ」、「きらいだ」は、連用形にしても引用節にしても、通常「思う」で受けることができない。これは、思い返してみよう、という客観的（全ての文は主観に基づいているけれども、その中でも文法的にあえて分類した場合）な判断をくだして話し手の思考を表明する「思う」を用いることができないということであるから、「すきだ」、「きらいだ」は、感情形容詞の中でも特に感情的な感情形容詞といえるのではないだろうか。

## ．おわりに

今回のこの稿では、特殊な文法形式をとる感情形容詞6語を考察した。それにより、多少なりとも6語の用法が明らかになっていけば幸いである。今回の考察では、それぞれの語の用法の一端が明らかになってきたに過ぎないので、今後は、今回の6語も含め感情形容詞の用法を明らかにするために、文中どのような節と接続し用いられやすいのか、あるいはそうでないのかについても考察していきたい。

### 語の用法の不可

	主体を「二八」で受ける	二重主語文	語の対象を「二」で受ける	連用形で「思う」と接続する	引用節で「思う」と接続する
一般的な感情形容詞 <sup>2)</sup>			×		
きのどくだ	×		×		
すまない	×	×			
もうしわけない	×	×			
すきだ	×		×	×	×
きらいだ	×		×	×	×
おかしい	× <sup>(3)</sup>	×	×	×	

においては、語を述語とした場合に限る。

- (1) 感情形容詞を述語にした場合で、文法形式に特殊性をもつ語は6語の他に「ほしい」も含まれるが、今回は紙幅の都合上割愛した。
- (2) いわゆる一般的に感情形容詞と呼ばれる語に関する分類であるが、語によってはこの分類に当てはまらないものもある。
- (3) 間違っている、通常ではない、という意味で用いる場合での用法に限る。詳細は、 章を参照のこと。

最後に、この稿につきましてご指導くださいました先生方に、心よりお礼申し上げます。

#### 参考文献

- 国際交流基金・日本国際教育協会編(2004)『日本語能力試験 出題基準【改訂版】』凡人社  
尾上圭介(2001)『文法と意味』くろしお出版  
矢澤真人(1998)「日本語の感情・感覚形容詞」『言語』第27巻3号 大修館書店  
益岡隆志(1997)「表現の主観性」『視点と言語行動』くろしお出版  
郡博子(1993)「感情形容詞についての考察」『大阪外国語大学留学生別科』第19号  
東弘子(1993)「統辞的特長による感情形容詞の意味記述」『名古屋大学国語国文学会』72  
寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集』くろしお出版  
渡辺実(1991)「わがこと・ひとごと」の観点と文法論」『国語学』165集  
森田良行(1989)『基礎日本語辞典』角川書店  
国立国語研究所(1987)『形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版  
日本語教育学会編(1982)『日本語教育事典』大修館書店  
小山敦子(1966)「の」「が」「は」の使い分けについて」『国語学』66集  
大石有香(2005)拙稿『用法からみた感情形容詞の一考察』